

きゅう かね いし じょう てい えん
旧金石城庭園

金石城跡保存整備事業に係る保存整備工事報告書

2011

対馬市教育委員会

きゅう かね いし じょう てい えん
旧金石城庭園

金石城跡保存整備事業に係る保存整備工事報告書

2011

対馬市教育委員会



巻頭写真① 遺跡遠望（南西から 平成13年7月撮影）



卷頭写真② 遺跡全景（平成13年7月撮影）



巻頭カラー① 庭園（整備後 東から）



巻頭カラー② 庭園（整備後 南東から）



巻頭カラー③ 庭園（整備後 北から）



巻頭カラー④ 管理棟（北から）

序 文

対馬には縄文時代以降の様々な遺跡が多く残り、文化遺産の宝庫と言えます。

近世に藩主が居を構えた厳原町の今屋敷地区一带には対馬藩主宗家墓所、金石城跡、清水山城跡の三史跡が残り、その一端を強く感じさせます。

本書は、対馬藩主であった宗氏の居城「金石城跡」に造られた名勝「旧金石城庭園」の保存整備工事報告書であります。

旧金石城庭園は「心字池」として知られ、親しまれてきましたが、時代の経過とともに埋没し、いつしかその姿を失っていました。

そこで、この貴重な文化遺産を次世代に継承していくため、発掘調査をし、整備復元に取り組むことにいたしました。

調査と整備は多年に渡りましたが、甲斐あって美しく当時の姿が蘇りました。

今後、その価値を損なうことなく保護、継承し、内外に発信するよう努力していく所存です。

発掘調査の考古学的成果については昨年度刊行した報告書で公表させていただきました。

今回は調査によって明らかにされた遺構が「庭園」としてかつての美しい姿に復元されていく過程と、工事方法、内容等について報告させていただきます。

本書が対馬の歴史研究と文化財の保存に寄与する貴重な資料となれば望外の幸せであります。

事業に当たり、ご協力を賜りました皆様に心よりお礼を申し上げます。

平成23年3月

対馬市教育委員会
教育長 梅野正博

例 言

1. 本書は国宝重要文化財等保存整備事業補助金を受けて平成9年度から平成16年度まで実施した史跡清水山城跡ほか史跡等・登録記念物保存修理事業、及び平成17年度から平成19年度まで実施した史跡金石城跡史跡等・登録記念物保存修理事業、平成20年度から平成21年度まで実施した史跡金石城跡史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業に伴う旧金石城庭園保存整備工事の成果をとりまとめたものである。
2. 本書の原稿は株式会社空間文化開発機構に作成を委託し、尾上博一(対馬市教育委員会文化財課)の指導の下で増田洋祐(空間文化開発機構)が本文を執筆した。原稿は尾上が加除修正し編集した。本文中、第1章、第2章は尾上が執筆した。
3. 本書の図版は尾上指導の下で増田が作成した。
4. 本書関係の図面及び写真は対馬市教育委員会文化財課が保存し管理している。

凡 例

1. 挿図の方位は国土調査法による第Ⅰ座標系を基準とした。磁針方位は約 $6^{\circ}40'$ 西偏する。
2. 図2は国土地理院平成17年2月1日発行1/1,000,000「日本Ⅲ」を使用して作成した。
3. 図3は国土地理院平成17年3月1日発行1/50,000地形図「巖原」を使用して作成した。
4. 写真図版の縮尺は任意・不統一である。

本文目次

第1章 事業解説	1	第13項 法面保護工事	80
第1節 事業経緯	1	第14項 電気設備工事	80
第1項 背景	1	第15項 給水工事	80
第2項 沿革	2	第16項 撤去工事	80
第3項 名勝指定	3		
第2章 史跡金石城跡の概要	4	第4章 まとめ	81
第1節 地理的環境	4	第1節 維持管理の方針	81
第1項 位置	4	第2節 将来への課題	82
第2節 歴史的環境	4		
第3章 整備事業の概要	7		
第1節 整備基本方針	7		
第2節 実施設計	7		
第3節 事業組織	12		
第1項 事業関係者	12		
第2項 整備委員会	13		
第4節 事業の概要	18		
第1項 測量・設計監理	18		
第2項 工事施工	20		
第3項 事業費	25		
第5節 整備工事各説	26		
第1項 土工事	26		
第2項 石垣修理工事・水路修理工事	28		
第3項 景石等据え直し工事	40		
第4項 石材保存修復工事	59		
第5項 池底打ち工事	62		
第6項 礫敷工事	62		
第7項 雨水排水工事	63		
第8項 園路広場工事	65		
第9項 管理施設工事	65		
第10項 管理棟建築工事	69		
第11項 学習施設工事	77		
第12項 植栽工事	78		

挿図目次

図

1	金石城跡及び旧金石城庭園配置図 (S=1/2,500)	3
2	遺跡位置図1 (S=1/1,000,000)	6
3	遺跡位置図2 (S=1/50,000)	6
4	整備計画平面図 (S=1/500)	8
5	施設配置図 (S=1/500)	9
6	雨水排水平面図 (S=1/500)	10
7	植栽平面図 (S=1/500)	11
8	造成箇所図 (S=1/600)	26
9	造成断面図 (S=1/400)	27
10	石垣標準断面図 (S=1/600)	30
11	石垣修理箇所図 (S=1/600)	31
12	搦手檜台石垣修理図1 (S=1/60)	33
13	搦手檜台石垣修理図2 (S=1/60)	34
14	搦手檜台石垣修理図3 (S=1/60)	35
15	搦手檜台石垣修理図4 (S=1/60)	36
16	搦手檜台石垣修理図5 (S=1/60)	37
17	搦手檜台石垣修理図6 (S=1/60)	38
18	搦手檜台石垣修理図7 (S=1/80)	39
19	景石等据え直し箇所図 (S=1/600)	40
20	景石区分図1 (S=1/120)	43~44
21	景石区分図2 (S=1/120)	45~46
22	景石据え直し図1 (S=1/120)	47~48
23	景石据え直し図2 (S=1/120)	49~50
24	景石修復標準詳細図 (S=1/10)	59
25	景石修復詳細図1 (S=1/20)	60
26	景石修復詳細図2 (S=1/20・40)	61
27	池底・礫敷標準断面図 (S=1/20)	62
28	集水桝詳細図 (S=1/40)	63
29	石積水路標準断面図 (S=1/20)	63
30	U300B標準断面図 (S=1/20)	64
31	コルゲートフリューム標準断面図 (S=1/20)	64
32	水位調整部断面図 (S=1/30)	64
33	暗渠管VP300標準断面図 (S=1/20)	64

34	土舗装標準断面図 (S=1/20)	65
35	砂利敷標準断面図 (S=1/20)	65
36	板石据付標準断面図 (S=1/20)	65
37	門扉A詳細図 (S=1/60)	66
38	門扉B詳細図 (S=1/60)	67
39	人止柵詳細図 (S=1/50・20)	68
40	進入防止柵詳細図 (S=1/40)	68
41	遮蔽垣詳細図 (S=1/50)	69
42	設備配置図 (S=1/500)	70
43	管理棟平面詳細図 (S=1/40)	71
44	管理棟立面図 (S=1/80)	72
45	矩計図 (S=1/40)	73
46	断面詳細図 (S=1/40)	73
47	屋根伏せ図 (S=1/80)	74
48	小屋伏せ図 (S=1/80)	74
49	電気設備詳細図 (S=1/80)	75
50	機械設備詳細図 (S=1/80)	76
51	案内板詳細図 (S=1/40)	77
52	案内板表示板詳細図 (S=1/10)	77
53	根切板詳細図 (S=1/10)	78
54	四つ目垣詳細図 (S=1/30)	78
55	竹矢来詳細図 (S=1/60)	78
56	法面整形標準断面図 (S=1/50)	80
付図	景石番号付け図 (S=1/100)	

表目次

表

1	事業費	25
2	石垣修理工 数量表	32
3	水路修理工 数量表	32
4	景石区分 (重量)	41
5	景石区分 (動・不動)	41
6	景石据え直し	41
7	景石新規据え直し	41
8	景石一覧表1~8	51~58
9	導入植栽一覧表	79

写真図版目次

巻頭写真① 遺跡遠望	29 盛土転圧状況……………86
巻頭写真② 遺跡全景	30 石垣A 完了……………86
巻頭カラー① 庭園	31 石垣A' 着工前……………86
巻頭カラー② 庭園	32 石垣解体状況……………86
巻頭カラー③ 庭園	33 裏込栗石敷均状況……………87
巻頭カラー④ 管理棟	34 石垣A' 完了……………87
写真	35 石垣B 着工前……………87
1 土工 着工前……………83	36 鉛板布設状況……………87
2 土工 着工後……………83	37 盛土転圧状況……………87
3 土工 着工前……………83	38 石垣B 完了……………87
4 土工 着工後……………83	39 石垣C 石垣積み直し状況……………87
5 景石仮置き状況……………83	40 石垣C 完了……………87
6 水路埋め戻し前……………83	41 石垣D 着工前……………88
7 栗石敷均状況……………83	42 石垣補足積み状況……………88
8 礫混入状況……………83	43 裏込栗石敷均状況……………88
9 水路埋戻状況(赤土)……………84	44 石垣D 完了……………88
10 水路埋戻完了……………84	45 石垣E 完了……………88
11 石橋下石積状況……………84	46 石垣F 完了……………88
12 土工 着工前……………84	47 石垣G 着工前……………88
13 土工 着工前……………84	48 石垣G 完了……………88
14 土工 着工前……………84	49 搦手門櫓台石垣 No.1 着工前……………89
15 切土状況……………84	50 番号付け状況……………89
16 盛土整形状況……………84	51 搦手門櫓台石垣 No.1 完了……………89
17 盛土整形状況……………85	52 搦手門櫓台石垣 No.2 着工前……………89
18 盛土整形状況……………85	53 搦手門櫓台石垣 No.2 完了……………89
19 盛土整形状況……………85	54 搦手門櫓台石垣 No.2 完了……………89
20 盛土整形状況……………85	55 搦手門櫓台石垣 No.3 着工前……………89
21 盛土整形状況……………85	56 石垣解体状況……………89
22 土工 着工後……………85	57 石垣解体完了……………90
23 土工 着工後……………85	58 裏込栗石敷均状況……………90
24 土工 着工後……………85	59 搦手門櫓台石垣 No.3 完了……………90
25 石垣A 着工前……………86	60 搦手門櫓台石垣 No.4 着工前……………90
26 石垣解体状況……………86	61 搦手門櫓台石垣 No.4 完了……………90
27 石垣積み直し状況……………86	62 搦手門櫓台石垣 No.5 着工前……………90
28 不織布布設状況……………86	63 搦手門櫓台石垣 No.5 完了……………90

64	搦手門櫓台石垣 No.6 着工前	90	101	水路積み直し状況	95
65	搦手門櫓台石垣 No.6 完了	91	102	水路4 完了	95
66	搦手門櫓台石垣 No.7 着工前	91	103	景石据え直し ①-145 着工前	95
67	間詰石据え直し状況	91	104	景石据え直し ①-145 完了	95
68	搦手門櫓台石垣 No.7 完了	91	105	景石据え直し ②-299 着工前	96
69	搦手門櫓台石垣 No.8 着工前	91	106	景石据え直し ②-299 完了	96
70	搦手門櫓台石垣 No.8 完了	91	107	景石据え直し ④-153 着工前	96
71	搦手門櫓台石垣 No.9 着工前	91	108	景石据え直し ④-153 完了	96
72	搦手門櫓台石垣 No.9 完了	91	109	景石据え直し ④-231 着工前	96
73	搦手門櫓台石垣 No.10 着工前	92	110	景石据え直し状況 ④-231	96
74	石垣積み直し状況	92	111	景石据え直し ④-231 完了	96
75	搦手門櫓台石垣 No.10 完了	92	112	景石据え直し状況 N-22	96
76	搦手門櫓台石垣 No.11 着工前	92	113	景石据え直し N-22 完了	97
77	搦手門櫓台石垣 No.11 完了	92	114	景石据え直し 完了	97
78	搦手門櫓台石垣 No.12 着工前	92	115	景石据え直し 完了	97
79	裏込栗石敷均状況	92	116	景石等据え直し状況	97
80	搦手門櫓台石垣 No.12 完了	92	117	延石据え直し 着工前	97
81	栗石敷状況	93	118	床掘り状況	97
82	水路1北壁 着工前	93	119	延石据え直し状況	97
83	裏込栗石敷均状況	93	120	延石据え直し 完了	97
84	水路1北壁 完了	93	121	石材保存修復 ④-89 着工前	98
85	水路1南壁 着工前	93	122	清掃状況	98
86	水路積み直し状況	93	123	接合面樹脂塗布状況	98
87	水路補足積み状況	93	124	接合状況	98
88	水路積み直し完了	93	125	削孔状況	98
89	水路1南壁 完了	94	126	樹脂注入状況	98
90	水路2北壁 水路解体完了	94	127	ステンレスアンカーピン挿入状況	98
91	不織布布設状況	94	128	ステンレスアンカーピン挿入完了	98
92	水路2北壁 完了	94	129	擬石塗布状況	99
93	水路2南壁 着工前	94	130	石材保存修復 ④-89 完了	99
94	水路解体完了	94	131	石材保存修復 ①-262 着工前	99
95	水路補足積み状況	94	132	石材保存修復 ①-262 完了	99
96	裏込栗石敷均状況	94	133	石材保存修復 ②-154 着工前	99
97	水路2南壁 完了	95	134	石材保存修復 ②-154 完了	99
98	水路4 着工前	95	135	石材保存修復 ②-203 着工前	99
99	水路解体状況	95	136	石材保存修復 ②-203 完了	99
100	水路解体完了	95	137	石材保存修復 ②-206 着工前	100

138	石材保存修復 ②-206 完了	100	175	床掘状況	104
139	石材保存修復 ③-15 着工前	100	176	基礎碎石敷均状況	104
140	石材保存修復 ③-15 完了	100	177	集水柵設置状況	105
141	石材保存修復 ④-86 着工前	100	178	石積水路施工状況	105
142	石材保存修復 ④-86 完了	100	179	施工状況	105
143	石材保存修復 ④-271 着工前	100	180	石積水路 完了	105
144	石材保存修復 ④-271 完了	100	181	コルゲートフリューム450床掘状況	105
145	池底打ち 着工前	101	182	設置状況	105
146	堆積土撤去状況	101	183	埋戻状況	105
147	堆積土撤去完了	101	184	吐口状況	105
148	転圧状況	101	185	暗渠管 VP150設置状況	106
149	不織布布設状況	101	186	石組水路設置状況	106
150	赤土・消石灰混合状況	101	187	石組水路 完了	106
151	転圧状況	101	188	コンクリート堰設置完了	106
152	池底打ち 完了	101	189	暗渠管 φ100 着工前	106
153	防水シート布設状況	102	190	堆積土除去状況	106
154	トレンチ部分池底打ち完了	102	191	暗渠管 φ100設置状況	106
155	礫採集状況	102	192	暗渠管 φ100設置状況	106
156	防草シート布設状況	102	193	土舗装 着工前	107
157	礫敷均状況	102	194	表土スキ取り状況	107
158	礫敷均状況	102	195	真砂土搬入状況	107
159	礫敷 完了	102	196	転圧状況	107
160	礫敷 完了	102	197	転圧状況	107
161	暗渠管B (VP300) 床掘状況	103	198	土舗装 完了	107
162	暗渠管B (VP300) 設置状況	103	199	砂利敷 基盤整正状況	107
163	暗渠管B (VP300) 完了	103	200	転圧状況	107
164	暗渠管C (VP300) 設置状況	103	201	砂利敷均状況	108
165	暗渠管C (VP300) 埋戻状況	103	202	砂利敷 完了	108
166	暗渠管D (φ150) 設置状況	103	203	板石据付① 着工前	108
167	暗渠管D (φ150) 排水口状況	103	204	板石据付① 完了	108
168	集水柵 (プレキャスト) 設置状況	103	205	板石据付② 着工前	108
169	U300B 転圧状況	104	206	施工状況	108
170	基礎碎石敷均状況	104	207	板石据付② 完了	108
171	設置状況	104	208	板石据付③ 着工前	108
172	目地詰め状況	104	209	施工状況	109
173	U300B 完了	104	210	板石据付③ 完了	109
174	集水柵現打状況	104	211	盛土整地 着工前	109

212	施工状況	109	249	管理棟 着工前	114
213	盛土整地 完了	109	250	床掘状況	114
214	巨石据付	109	251	碎石地業転圧状況	114
215	腰石積施工状況	109	252	捨てコンクリート打設状況	114
216	腰石積 完了	109	253	土間配筋検査状況	114
217	門扉A 着工前	110	254	土間コンクリート打設状況	114
218	基礎碎石施工状況	110	255	土間コンクリート打設完了	114
219	コンクリート基礎施工状況	110	256	東石・地覆石設置状況	114
220	東石据付状況	110	257	縁石設置状況	115
221	建て込み状況	110	258	建て込み状況	115
222	門扉A (正面) 完了	110	259	化粧板取付状況	115
223	門扉A (背面) 完了	110	260	羽子板ボルト設置状況	115
224	門扉B 床掘状況	110	261	ひねりかすがい設置状況	115
225	床掘完了	111	262	天井板設置状況	115
226	基礎碎石施工状況	111	263	鴨居敷居設置状況	115
227	ベース金物	111	264	受付デスク設置状況	115
228	コンクリート基礎施工状況	111	265	補強アングル設置状況	116
229	東石据付状況	111	266	銅板一文字葺施工状況	116
230	建て込み状況	111	267	棟瓦施工状況	116
231	門扉B完了	111	268	棟瓦 完了	116
232	回転ゲート 着工前	111	269	軒樋設置状況	116
233	基礎碎石施工状況	112	270	土間モルタル金ゴテ施工状況	116
234	基礎コンクリート施工状況	112	271	珪藻土仕上げ状況	116
235	組立状況	112	272	外壁下地処理状況	116
236	組立状況	112	273	幅木洗い出し状況	117
237	回転ゲート 完了	112	274	木部保護塗料塗り	117
238	人止柵 着工前	112	275	木部保護塗料塗り	117
239	基礎碎石転圧状況	112	276	木部保護塗料	117
240	基礎コンクリート打設状況	112	277	グラスウール施工状況	117
241	建て込み状況	113	278	配線状況	117
242	人止柵 (正面) 完了	113	279	配管状況	117
243	人止柵 (背面) 完了	113	280	埋設標識布設状況	117
244	遮蔽垣控え柱設置状況	113	281	引き込み開閉器盤	118
245	施工状況	113	282	水道管布設状況	118
246	遮蔽垣 完了	113	283	水道管取り付け状況	118
247	進入防止柵設置状況	113	284	埋設シート布設状況	118
248	進入防止柵 完了	113	285	排水管設置状況	118

286	キッチン設置状況	118	323	根切板 施工状況	123
287	電気温水器設置状況	118	324	根切板 設置状況	123
288	管理棟 完了	118	325	根切板 完了	123
289	案内板 着工前	119	326	四つ目垣 施工状況	123
290	錆止め塗装状況	119	327	四つ目垣 完了	123
291	基礎碎石施工状況	119	328	竹矢来 完了	123
292	捨てコンクリート打設状況	119	329	植生マット 施工状況	124
293	支柱アンカー取付状況	119	330	植生マット 完了	124
294	表示板取付状況	119	331	法面復旧 着工前	124
295	案内板 完了	119	332	石材据付状況	124
296	誘導サイン 完了	119	333	暗渠管 φ100設置状況	124
297	クロマツ仕立物 植込状況	120	334	法面整形 完了	124
298	クロマツ仕立物 植込完了	120	335	ブロック積擁壁撤去 着工前	124
299	二脚鳥居支柱 設置状況	120	336	取り壊し状況	124
300	中木植栽 植込状況	120	337	ブロック積擁壁撤去 完了	125
301	中木植栽 植込完了	120	338	コンクリート階段撤去 着工前	125
302	中木植栽 植込完了	120	339	取り壊し状況	125
303	中木植栽 植込完了	120	340	基礎コンクリート撤去 着工前	125
304	中木植栽 植込完了	120	341	基礎コンクリート撤去 完了	125
305	高木植栽 植込完了	121	342	伐木伐根 着工前	125
306	中木植栽 植込状況	121	343	施工状況	125
307	中木植栽 植込状況	121	344	伐木伐根 完了	125
308	中木植栽 植込状況	121			
309	中木植栽 植込状況	121			
310	中木植栽 植込状況	121			
311	中木植栽 植込状況	121			
312	低木植栽 植込状況	121			
313	低木植栽 植込状況	122			
314	低木植栽 植込状況	122			
315	張芝 施工状況	122			
316	張芝 完了	122			
317	張芝 施工状況	122			
318	張芝 完了	122			
319	コグマザサ 施工状況	122			
320	コグマザサ 施工状況	122			
321	コグマザサ 完了	123			
322	コグマザサ 完了	123			

第1章 事業解説

第1節 事業経緯

第1項 背景

金石城跡、対馬藩主宗家墓所、清水山城跡の整備、保存活用の方針と方法を明確にするため昭和63年（1988）に専門家、文化庁、長崎県、巖原町の4者が「文化財ゾーン懇談会」を開催した。当会によって金石城跡を国指定史跡に申請するとともに他史跡と一体的に整備する計画が決まり、平成3年（1991）に取りまとめた「第3次巖原町総合計画」で「日本の伝統文化を大事にするまち（地域の個性と魅力の形成）」と題した文化財を軸とした街作りの戦略を打ち出した。

平成元年（1989）12月から同2年10月に掛けて「自ら考え自ら実践する地域づくり（ふるさと創生1億円）」事業で櫓門を復元し、続く平成2年度から平成4年度までの3カ年には「城下町巖原拠点整備事業」として金石城跡「心字池」一帯の公園整備を実施した。

この工事中に城跡北西隅の櫓門跡から石敷き遺構が発見され、緊急に確認調査を実施した。調査で城内に各種遺構が良好に遺存していることが明らかとなり、平成7年（1995）3月に「巖原町『夢づくり構想』」を策定して「対馬藩主宗家墓所等周辺整備事業」を掲げ、具体的な史跡群の保存修理・整備・活用計画に取り組む運びとなった。同時に「地域振興戦略プロジェクト」も掲げ、史跡に隣接する既存の郷土館や利用地を活かした対馬歴史博物館整備も併せて取り組むべき課題として目標を設定し巖原町市街地における史跡その他の文化財を対象に「いづはら歴史と自然の博物館」構想に基づき、町は国、県、専門家とともに史跡整備と動線・連絡路等環境整備を開始した。

<第3次巖原町総合計画>（平成3年3月）

巖原町の将来目指すべき方向を定めた総合計画（平成3年～平成12年）では、その将来像に「海と山につつまれた歴史と文化と交流の都市」を掲げ、その実現に向けて戦略課題をあげている。対馬藩主宗家墓所等に関するものとして、「日本の伝統文化を大事にするまち（地域の個性と魅力の形成）」を掲げ、町の主要施設のひとつに位置づけている。

<巖原町「夢づくり構想」>（平成7年3月）

巖原町「夢づくり構想」は「第3次巖原町総合計画」を上位計画とし、本町の将来像である「海と山につつまれた歴史と文化と交流の都市」づくりに向けての重点的施策をとりまとめている。対馬藩主宗家墓所等に関するものとして「対馬藩主宗家墓所等周辺整備事業」を掲げ、宗家墓所周辺整備等を図ることとしている。

<「いづはら歴史と自然の博物館」構想>

地域固有の文化財及びこれらを取りまく環境の保存と価値の顕在化・継承による地域全域の博物館的空間づくりを提言している。

第2項 沿 革

巖原町が「城下町巖原拠点整備事業」のもとで金石城跡の整備を進めるなか、平成4年度に国宝重要文化財等保存整備費補助金を受け、万松院が「対馬藩主宗家墓所保存修理事業」として山門の解体修理（第1期）に着手した。平成5年度からは巖原町が事業主体となって引き継ぎ、「対馬藩主宗家墓所外保存修理事業」と名を変え実施した。また同事業において対馬藩主宗家墓所等保存整備委員会を設置し、金石城跡と清水山城跡を含む3史跡を対象とした整備のための具体的な検討を開始する。平成5年度第1回委員会で庭園を中心として金石城跡全体を整備していく方向性が明確にされ、第2回委員会では発掘調査の方針が定められた。委員会での協議を経て、各史跡の整備事業は周辺環境を含めて一体的に進めるべく一事業に整理され、平成6年度に「史跡清水山城跡ほか保存修理事業」の名称で新たな出発を遂げた。平成7年3月28日には金石城跡が国に史跡の指定を受け、平成8年3月に史跡対馬藩主宗家墓所等保存整備基本計画書（以後「基本計画」という）を刊行した。

基本計画では金石城跡はモニュメントゾーン（文化財保存活用ゾーン）に位置し、金石城跡エリア（国指定史跡金石城跡及び周辺地）に区分される。系統的な発掘調査によって遺構を解明し、保存及び活用整備を経た一般公開を目標としている。城内は5地区に分かれ、心字池は城門・庭園地区に分類される。発掘調査の成果に基づいた心字池を中心とする庭園跡の環境整備を図るとともに、城門跡遺構についても可能な限り復元整備に努めることを整備方針として定めた。平成9年度から平成16年度まで継続した範囲確認調査で遺構を検出し、平成11年度から同13年度まで土砂掘削など埋め立て土の除去により整備の予備工事を始め、14年度から景石据え直しや水路の保存修理といった本格的な整備に移行した。主な植栽及び園路舗装、学習施設整備を平成19年度までに終え、翌20年度から供用を開始した。なお主幹事業は金石城跡を単独対象としてほか2史跡と分離し、平成20年度から「史跡「金石城跡」史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業」となっている。

地区別整備方針（基本計画より抜粋）

地 区	整 備 方 針
城門・庭園地区	遺構の解明及び史跡整備のための発掘調査を行い、この成果をもとに心字池を中心とする庭園跡の環境整備を図る。また、城門跡遺構についても可能な限り、その復元整備に努める。
町民グラウンド地区	近年町民のレクリエーション空間として整備がなされたが、今後関係機関との調整を図りつつ、現在の機能を他地域に移転し史跡整備のため発掘調査を行い、その成果を踏まえ屋形跡等の環境整備を図る。
枅形地区	現存する巖原幼稚園や海洋プールは移転を図り、史跡整備のための発掘調査を行い、その成果を踏まえ、石垣をはじめとする枅形遺構の復元整備を図る。
ビジターセンター地区	今後関係機関との協議を図り、現存する県立対馬歴史民俗資料館、郷土資料館、ビジターセンター等公共施設の統廃合を検討し、金石城跡をはじめ、宗家墓所、清水山城跡等を含めたガイダンス施設的建物を整備する。合わせて、来訪者の便益、休養施設等や駐車場を整備する。
エントランス地区	民有地ではあるが、3史跡が集中する中核ゾーンのエントランス空間としてふさわしい整備が望まれる空間である。今後は土地所有者等関係機関の協力、理解を得ながら、いづらは歴史と自然の博物館の中核施設のエントランス部として、博物館の概要等を紹介する機能等の具備を働きかけるものとする。

第3項 名勝指定

- (1) 名称 旧金石城庭園
- (2) 種別 名勝 一
- (3) 所有者 対馬市
- (4) 管理団体 対馬市
- (5) 所在地 長崎県対馬市厳原町今屋敷670番1
- (6) 指定面積 4,983.48㎡
- (7) 指定日 平成19年2月6日
- (8) 指定理由 池底に漏水防止のため、種類の違う粘土を交互に重ねて叩き締めた「版築」という工法による底打ちを施しているほか、対馬に特有の石英班岩からできた白い土を用いた化粧や、中島の水際を中心に細かな玉砂利を敷きつめた洲浜状の汀線を作るなど、近世庭園としては希少な意匠・構造を持つ。玉砂利敷の汀線から巨大な景石へと連続する意匠には対馬沿岸の風景と通じるものがあり、独特の風土を活かした作庭精神をうかがい知ることができる。また、園池の北から溪流を象ったと思われる流れを経て、北西側の山側から湧き出る水を導き入れ、園地東側の石組水路へと濾過排水する特殊な水回りの構造についても注目される。こうした意匠・構造上の特質が発掘調査によって明確になり、庭園遺構として審美的価値の源となる園池の骨格が極めて良好に残ることが示された。さらに、調査成果に基づいて行われた修復整備で庭園が当時の姿に復元され、芸術上・鑑賞上の価値が顕在化したことによる。
- (9) 官報告示 平成19年文部科学省告示第6号

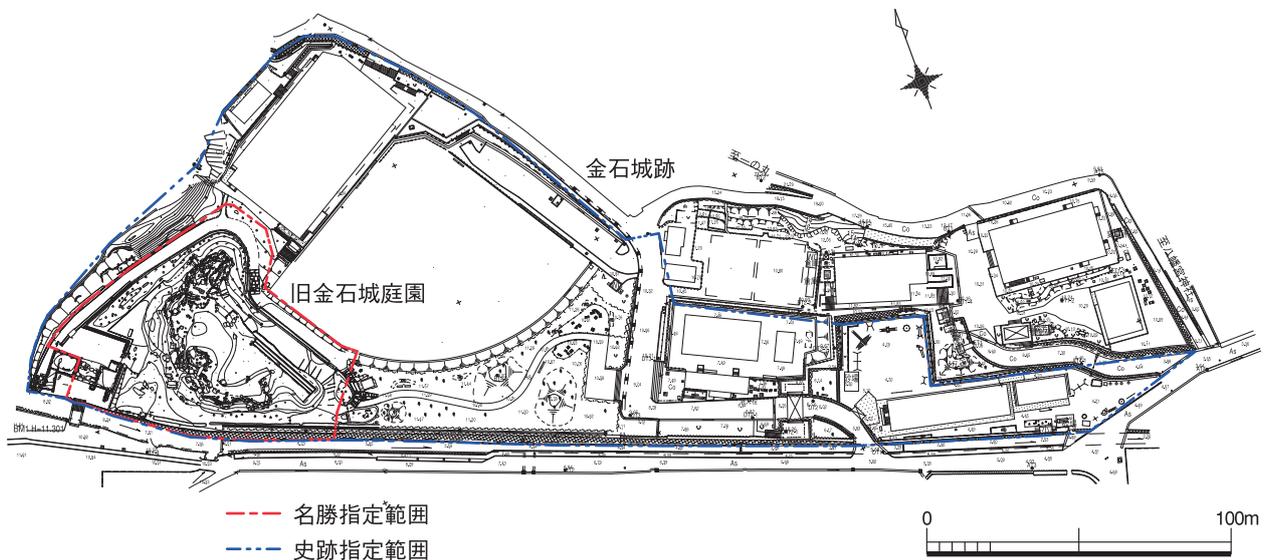


図1 金石城跡及び旧金石城庭園配置図 (S=1/2,500)

第2章 史跡金石城の概要

第1節 地理的環境

第1項 位置

旧金石城庭園は、長崎県対馬市^{いまやしき}厳原町今屋敷670番1に所在する。小字は^{かねいし}金石である。

対馬は日本海と東シナ海の境界にあり、北西に朝鮮半島を望む九州最北の島である。所属する長崎県においても当然最北であり、韓国との位置関係から俗に「国境の島」と呼ばれることがある。県内には約600の島があるが、壱岐、五島列島、平戸諸島、西彼諸島の中でも最大の面積を誇る。北緯34度42分～34度5分、経度129度30分～129度10分に位置し、大阪から和歌山の緯度に相当する。東の海域を対馬海峡東水道（対馬海峡）と呼び、西の海域を対馬海峡西水道（朝鮮海峡）と呼ぶ。二つの海域に東西を挟まれ、対馬暖流とリマン海流の影響を受けている。

1島1市で、6町から構成され、厳原町は対馬市の最南に位置する。市内最大の町で対馬の約4分の1の面積を占める。近隣への距離は、東岸の安神から隣島の壱岐まで約46km、小浦から福岡県の沖の島までも同じく約46kmである。名護屋城跡がある佐賀県唐津市の東松浦半島までは町南端の^{うづ}豆飯から約83kmを測る。一方西岸の^{あれ}阿連から韓国の巨済島まで約70kmである。遺跡がある今屋敷は厳原町の東海岸に位置し、南の鶴翼山と北の清水山に挟まれた谷部の出口に当たり、南の国分地区とは東に流れる金石川によって分けられている。金石川は清水山の麓を海に向かって東に流れ、下流で南東に曲がり、港に注いでいる。屈曲開始地点に架かる橋を桜橋と言ひ、そこから120m東に架かる橋を江尻橋と言う。この江尻橋から八幡神社までの下馬場筋通り西側一帯が今屋敷である。金石城跡は東西約300m、南北は最大約120mの狭長な平地にあり、標高は低く、西で約11m、最も低い枡形部では約6mである。対馬藩主宗家墓所から続く金石川の北側護岸には城壁の石垣が良好に残っている。

第2節 歴史的環境

1. 島分寺の比定地

全国に建立されていた島分寺だが、対馬では平安時代に入りようやく落成された。場所は清水山の南麓と考えられている。天安元年（857）に叛民によって国府が焼かれ国守^{たつのまさみね}立野正岑が殺害されたことが『文徳天皇実録』や『三大実録』から分かっているが、このとき島分寺も焼失している。貞観17年（875）頃に再建されたようだが、詳細は不明である。文永4年（1267）の八幡宮文書『寺社僧徒等免行事』に島分寺がないことから、このころ既に廃れていたが文明年間（1470頃）に宗貞国が^{そうさだくに}国分寺として復興したという（永留2009）。この場所が島分寺も置かれていた清水山南麓であり、後に金石城が作られた金石原である。

2. 宗氏の拠点

宗貞国がそれまで拠点であった佐賀（現在の峰町佐賀）から国府に移ったのが応仁2年（1468）で、居を構えたのが清水山東麓に位置する中村である。この島主の屋敷が「中村の屋形」であり、『李朝実録』の「世宗実録」に拠れば相当な規模であったようである（永留2009）。宗盛賢（後の^{もりかた}将盛^{まさもり}）は襲封した大永7年（1527）に府城を今屋敷の「池の屋形」に移したが、享禄元年（1528）に一族の内

紛により焼失した。盛賢は難を逃れて印鑰神社に隠れ、後に金石の地に新たな屋形を建築した。これを「金石屋形」または府城と呼んだ。万治2年（1659）を初め、寛文元年（1661）、延宝5年（1677）と寛文年間前後は城下で大火が相次ぎ、藩は再興と併せて大規模な町の整備に着手した。その一環として金石屋形の整備もあり、寛文5年（1665）に国分寺を日吉に移して拡張し、同9年には大手門に櫓を建てた。こうした拡張や改修を経て屋形は「金石城」と称され執政の拠点に置かれることになった。金石城と区別して用いられた棧原屋形（棧原城跡）は万治3年（1660）に着工し、延宝6年（1678）に落成している。

3. 作庭年代

心字池の作庭年代は明確ではないが長郷嘉寿^{ながさと かず}により宗家文書の「毎日記」から心字池の作庭記録と推定される記事が発見されている（長郷1981）。記事に拠れば元禄2年（1689）に中庭茂三^{なかにわ もさん}は以酌庵に庭と池の構築を申しつけられているが、翌3年3月の日記に、今度は「御城」の庭園工事を仰せつけられたと記されている。長郷は藩では古くから「御城」は金石城を、「御屋敷」は棧原の屋形を意味し、毎日記にも区別して用いられていることから、この庭は金石城跡における心字池を示しているのではないかと推定している。また6年6月の記録から作庭はこの時期に完了したのではないかと見る。よって現時点では心字池の成立期間は元禄3年から同6年頃と考える。

4. 絵図に描かれた心字池

金石城跡を描いた絵図は複数確認されている。対馬藩は、文化3年（1806）から文化4年に朝鮮通信使を迎えるための城内整備を行ったが、草場珮川^{くさば はいせん}が記した『津島日記』（1811）に掲載された「金石故城 上使小倉候旅館図」はその朝鮮通信使来島時の金石城内の建物群を描いた平面図である。また長崎県立対馬歴史民俗資料館が所蔵する宗家文庫史料に文化年間に作成されたというこれと同種の城内の建物配置図「金石城絵図」も残されている。そのほか伊藤根光^{いとうもとみつ}所蔵の「小笠原様御旅館図（文化八年幕府上使客館図）」（1811）にも城内の建物群の様子が描かれる。さらに宗家文庫史料にはほかに長節子^{ながせつこ}が作成時期を1687年から1811年の間に位置づける（長節子1985）「清水山城及び金石城絵図」がある。これらの絵図のうち、「金石城絵図」と「小笠原様御旅館図（文化八年幕府上使客館図）」に「泉水跡」として旧金石城庭園が描かれている。さらに昭和3年に稲作実習田の灌漑用水確保のために対馬藩主宗家墓所に水路を敷設したが、この工事状況を描いた実測図にも金石城内に池が描かれている。

【引用・参考文献】 本稿共通

長郷嘉寿 1981 「元禄毎日記こぼれ話」小松勝助 編『対馬風土記 第十七号』対馬郷土研究会
長 節子 1985 「勝本城・清水山城」『特別史跡名護屋城跡並びに陣跡2 文禄・慶長の役城跡図集』佐賀永留久恵 2009 『対馬国志』「対馬国志」刊行委員会

第3章 整備事業の概要

第1節 整備基本方針

基本計画において設定された金石城跡エリアの城門・庭園地区において、心字池を中心とする庭園跡を文化財庭園としての名勝指定を念頭におき、発掘調査、絵図等の既存文献資料等をもとに可能な限り遺構に近いレベルで作庭当時の姿を復元することを基本として整備を図るとともに、城門跡遺構についても可能な限り復元整備を図ることを整備基本方針とした。

第2節 実施設計

対馬藩主宗家墓所保存整備委員会や環境整備部会での検討、発掘調査の現地検討のもと、平成12年度以降、年度毎の実実施設計を行った。なお、実施設計に当たって設計内容を決定するほど決め手となる絵図等文献史資料が無かった（絵図として文化年間の絵図はあるが、詳細を確定するには不十分）ため、地割及び造成については発掘調査の成果をよりどころとすることとした。

実施設計における主たる工事概要は以下のとおりである。

工事概要一覧

工種	細目	数量	備考
土工	盛土	974m ³	
	切土	2,573m ³	
石垣修理工	石垣修理工	1式	表2参照
水路修理工	水路修理工	1式	表3参照
景石等据え直し工	景石等据え直し	1式	表4～7参照
石材保存修復工	石材保存修復工	8石	石材接合、擬石処理
池底打ち工	池底打ち	483m ²	厚5cm：467m ² 、厚30cm：16m ²
礫敷工	礫敷	651m ²	
雨水排水工	U型側溝	31m	U300B
	暗渠管	1式	VP300：15.5m、VP150：5.7m、φ150：10.7m、φ100：88m
	コルゲートフリューム	90m	450×450
	石積水路	34m	
	石組水路	1式	
	集水桝	2基	600×200、プレキャスト450角
園路広場工	土舗装	316m ²	t=100
	砂利敷	151m ²	t=50
	板石据付	1式	
管理施設工	門扉	2基	門扉A、門扉B（回転式ゲート）
	人止柵	3基	
	進入防止柵	107m	t=500
	遮蔽垣	30m	H=1,800
管理棟建築工	管理棟	1棟	木造平屋
学習施設工	案内板	1基	1,200×900
	誘導サイン	1基	400×200
植栽工	高木植栽	1式	表9参照
	中木植栽	1式	表9参照
	地被植栽	1式	表9参照
	四つ目垣	113m	t=1,200
	竹矢来	1式	H=1,000：10m、H=1,800：8.5m
法面保護工	植生マット	385m ²	
	法面整形	53m ²	石材据付24.6m、暗渠管φ100：13.8m



図4 整備計画平面図 (S=1/500)

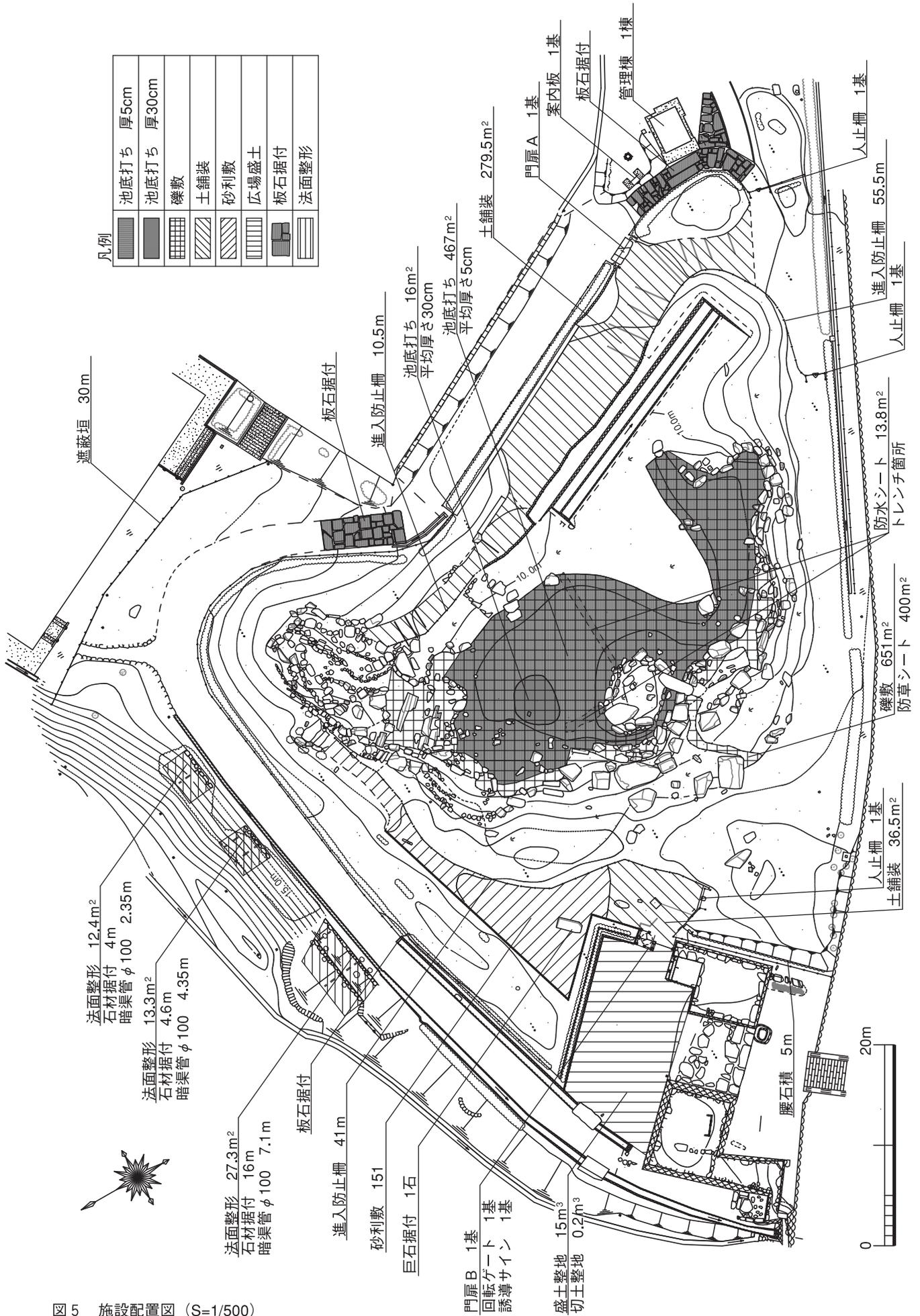


図5 施設配備図 (S=1/500)

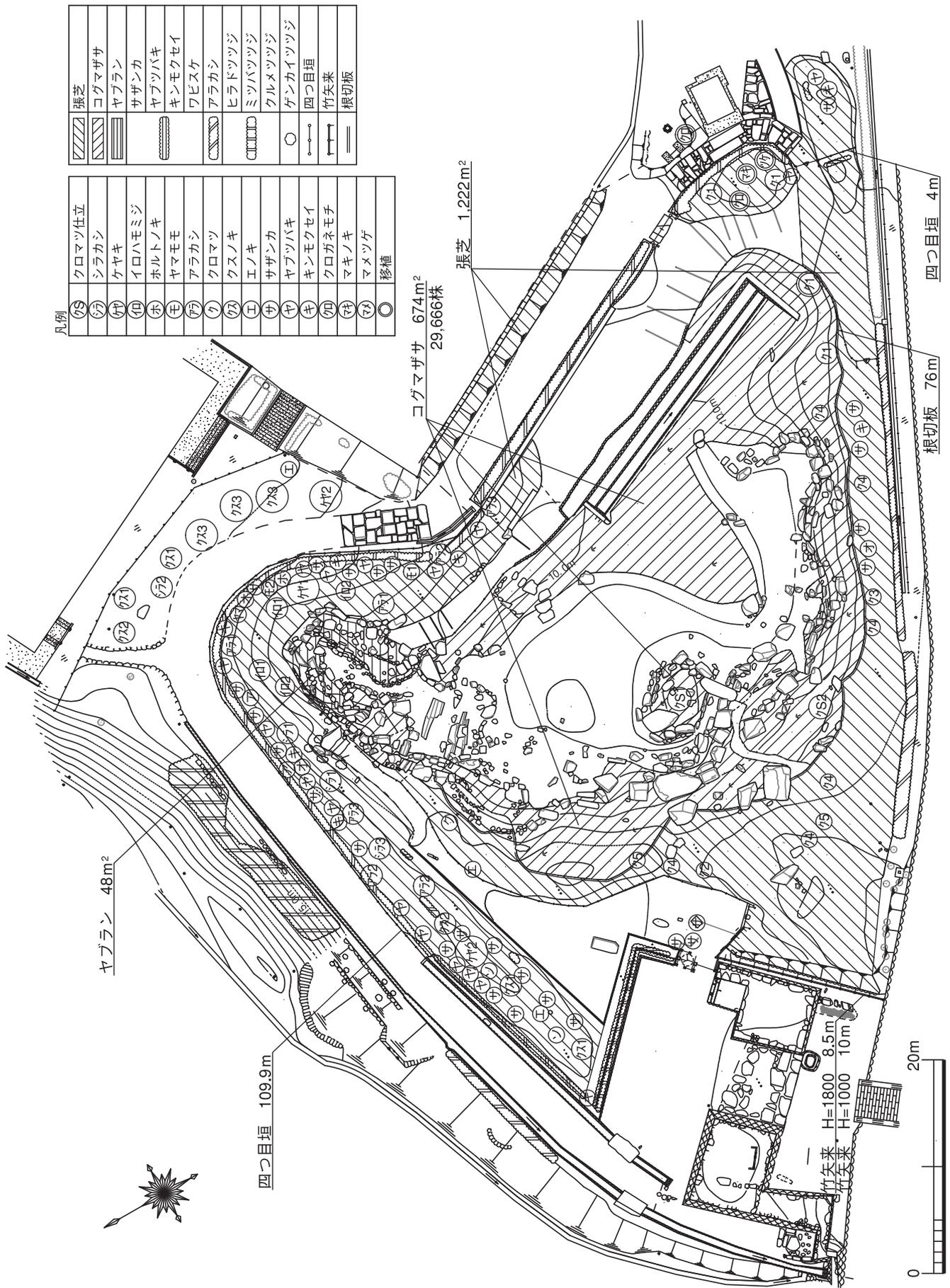


図7 植栽平面図 (S=1/500)

第3節 事業組織

第1項 事業関係者

○専門委員（50音順）

長 節子（九州産業大学国際文化学部教授） 平成5～21年度
佐伯弘次（九州大学文学部助教授） 平成5年度
齋藤弘征（郷土史研究者）副委員長 平成19～21年度
高瀬要一（和歌山県立紀伊風土記の丘館長） 平成13～21年度
永留久恵（郷土史研究者）副委員長 平成5～18年度
中村 一（京都大学名誉教授） 平成5～19年度
西谷 正（九州大学名誉教授）委員長 平成5～21年度
西村幸夫（東京大学工学部都市工学科教授） 平成5～21年度
服部英雄（九州大学大学院比較社会文化研究院教授） 平成7～21年度

○指導機関

加藤充彦（文化庁記念物課文化財調査官） 平成5年度
本中 眞（文化庁文化財保護部記念物課主任調査官） 平成7～21年度
安楽 勉（長崎県教育委員会文化課埋蔵文化財班係長） 平成5～6年度
田川 肇（長崎県教育委員会文化課埋蔵文化財班課長補佐） 平成7年度
高野晋司（長崎県教育委員会文化課埋蔵文化財班課長補佐） 平成8～10年度
町田利幸（長崎県教育委員会文化課埋蔵文化財班主任文化財保護主事） 平成9年度
副島和明（長崎県教育委員会文化課埋蔵文化財班係長兼副参事） 平成11～13年度
宮崎貴夫（長崎県教育委員会学芸文化課係長） 平成14年度
古門雅高（長崎県教育委員会学芸文化課埋蔵文化財班係長） 平成17年度
伊藤修一（長崎県教育委員会学芸文化課長文化企画班指導主事） 平成18～20年度
小林利彦（長崎県教育委員会学芸文化課長文化企画班指導主事） 平成21年度

○事務局

植村忠光（教育長） 平成5～12年度
村瀬 巖（教育長） 平成13～15年度
米田幸一（教育長） 平成16～19年度
河合 徹（教育長） 平成20～21年度
松本曆幸（教育委員会生涯学習課長） 平成5～8年度
高松久之（教育委員会生涯学習課長・巖原事務所長） 平成9～10・17年度
財部純臣（教育委員会生涯学習課長） 平成11～12年度
小島武博（教育委員会生涯学習課長・教育委員会文化財課長） 平成13～16・18～20年度
梅野菊次（教育委員会文化財課長） 平成21年度
長久敏一（教育委員会生涯学習課文化財係長） 平成5～8年度
小磯嘉文（教育委員会生涯学習課文化財係長） 平成6～13年度
井田喜啓（教育委員会生涯学習班副参事兼係長） 平成14～17年度
尾上博一（教育委員会文化財課主任）担当 平成12～21年度

（コンサルタント） 株式会社 空間文化開発機構 平成6～21年度

第2項 整備委員会

1. 対馬藩主宗家墓所保存整備委員会（金石城跡）（50音順）

長 節子（九州産業大学国際文化学部教授）平成5～21年度
齋藤弘征（郷土史研究者）副委員長 平成19～21年度
永留久恵（郷土史研究者）副委員長 平成5～18年度
中村 一（京都大学名誉教授）平成5～19年度
西谷 正（九州大学文学部教授）委員長 平成5～21年度
西村幸夫（東京大学工学部都市工学科教授）平成5～21年度
高瀬要一（和歌山県立紀伊風土記の丘館長）平成19～21年度
服部英雄（九州大学大学院比較社会文化研究科教授）平成7～21年

2. 対馬藩主宗家墓所保存整備委員会環境整備部会（金石城跡）（50音順）

齋藤弘征（郷土史研究者）副委員長 平成19～21年度
永留久恵（郷土史研究者）副委員長 平成13～18年度
高瀬要一（和歌山県立紀伊風土記の丘館長）平成13～21年度
中村 一（京都大学名誉教授）平成13～19年度

3. 整備委員会検討の経過

(1) 対馬藩主宗家墓所保存整備委員会（金石城跡）実施内容

第1回

日時：平成5年9月30日(木)～10月1日(金)

内容：城内のゾーニング、調査方法、整備方針、既存施設の撤去について

第2回

日時：平成6年3月14日(月)～3月15日(火)

内容：整備構想、整備計画、委員会設置要項について

第3回

日時：平成6年7月12日(火)～7月13日(水)

内容：整備基本計画書草案の内容について

第4回

日時：平成7年8月23日(木)～2月24日(金)

内容：整備基本計画書記載の個別事項について

第5回

日時：平成7年7月25日(火)～7月26日(水)

内容：整備基本計画書記載の個別事項、事業費、年次計画、既存施設の撤去について

第6回

日時：平成7年11月22日(水)

内容：整備基本計画書記載の個別事項、新規建造物の意匠、既存施設の撤去について

第7回

日時：平成8年10月25日(金)

内容：整備基本計画書、事業進捗状況、次年度以降の事業計画、発掘調査について

第8回

日時：平成9年10月31日(金)

内容：整備計画、発掘調査の年次計画、方針、次年度以降の事業計画について

第9回

日時：平成10年10月8日(金)

内容：整備計画、発掘調査の計画、次年度以降の事業計画について

第10回

日時：平成11年11月22日(月)～11月23日(火)

内容：整備計画、発掘調査の成果及び計画、次年度以降の事業計画について

第11回

日時：平成12年11月27日(月)

内容：整備計画、発掘調査の成果及び計画、次年度以降の事業計画について

第12回

日時：平成13年7月6日(金)

内容：発掘調査の成果及び計画、保存修理工事、次年度以降の事業計画について

第13回

日時：平成14年6月18日(火)～6月19日(水)

内容：発掘調査、保存修理工事（整備の具体的意匠、景石の据え直し、休憩棟、遊歩道、植栽、施工時の記録方法）、周辺環境、事業計画、部会等開催時期について

第14回

日時：平成14年12月4日(水)

内容：発掘調査、保存修理工事（遺構の保存方法、水位、池底の施工法、管理棟）、周辺環境、事業計画、町関連計画、既存施設の撤去等について

第15回

日時：平成15年7月15日(火)

内容：発掘調査、写真測量、保存修理工事（導水部の通路、井戸及び水路の整備方針、搦め手門石垣整備、埋め甕及び飛び石等遺構の取り扱い）、周辺環境、年次計画の見直しについて

第16回

日時：平成16年9月17日(金)

内容：発掘調査、保存修理工事（景石据え直しの計画、記録方法、整備報告書、排水方法、植栽、庭園の鑑賞位置）、周辺環境（体育館）、年次計画の見直しについて

第17回

日時：平成17年7月28日(木)

内容：発掘調査（埋め甕土壌分析、築山）、保存修理工事（搦め手門櫓台石垣、管理棟と四阿：位置、外観、意匠、照明、入場料、維持管理：管理主体、管理体制、運営、園路舗装）、基本計画の見直しについて

第18回

日時：平成18年2月28日(水)

内容：庭園管理（入園料、管理体制、運営、水位の観察）、保存修理工事（四阿の意匠）、次年度計画について

第19回

日時：平成18年7月28日(金)

内容：庭園の一般公開（期日、工程）、庭園管理（除草清掃等日常的維持管理、四阿設置見送り）、保存整備工事（庭園出入口の門扉、管理棟の設計）、庭園の名勝指定、次年度計画について

第20回

日時：平成19年2月14日(水)

内容：庭園施設（門扉の位置）、出土遺構（埋め甕・石組み枘等の取り扱い）、保存整備工事（園路舗装の工法変更、水位調整用排水路）、周辺環境（搦め手門周辺の集計計画）、次年度計画について

第21回

日時：平成19年8月17日(水)

内容：管理施設（回転ゲートの目隠し、人止め柵の位置、管理用道路の芝貼り、園路舗装の材料と工法：ダスト舗装・砂利舗装）、周辺環境（搦め手門東側櫓台の上からの展望遮蔽、金石川沿いの植栽による展望遮蔽）、維持管理（除草清掃）、活用（動線案内、観光客誘致、案内板、パンフレット、一般公開開始時のイベント）、保存整備工事（報告書刊行）、次年度計画について

第22回

日時：平成21年2月24日(火)

内容：活用（HPでの広報、インターネットの活用、造園学会への周知、月間文化財・長崎夢百景等への掲載、各種イベントの開催）、次年度計画について

第23回

日時：平成21年10月15日(木)

内容：管理（仕立物以外の松剪定、ツアーの利用、矢印等看板の整理、他部局との連携、ポスターや絵はがきなどの出版、ボランティア活用）、報告書刊行、次年度計画について